

---

情報番号：教育技法—11  
テーマ：ST（感受性訓練）  
編著者：IBEX-T

## 1. 感受性訓練（ST sensitivity training）とは

体験学習の代表的な技法がこの感受性訓練である。この技法は、通常は組織開発の技法として位置づけられる。組織開発にはコンサルティング方式と教育訓練方式があるが、教育訓練としては、自己洞察やリーダーシップ開発を目的としたラボラトリートレーニング方式がある。その代表的なものとして位置づけられているのがTグループ訓練、マネジリアルグリッドとこの感受性訓練である。チームラボラトリートレーニングと感受性訓練の違いは、前者が仕事の問題や管理活動の変革を目的としているのに対し、後者は主に個人の態度変容にねらいが置かれている点にある。

組織開発の技法として位置づけるか、単独の技法として位置づけるかは、これに類するものがないため、論議を要するが、感受性を強化する対人能力開発の手段としては優れた技法であるため、独立した研修技法として取り上げていく方が妥当であろう。

感受性訓練は字のごとく人間行動の知的理解でなく、集団での対面的相互作用を通して、対人間の共感性を高めていくことをねらいとしている。わかりやすくいえば、感情や動機づけのあり方や、行動が他人に与える影響、他人とのコミュニケーションの持ち方などを、体験を通じて自己認知していく方法である。直接的なフィードバックを多く活用されるため、一種独特の雰囲気での研修が進んでいく。

特殊な研修であり、講師（トレーナー）の力量によって効果が極端に左右されるため、実施は外部の公開団体に派遣して行なうか、専門トレーナーに委託して行なうことが望ましい。